

第1回 博多と福岡を結ぶ 国体道路の空間利活用検討会

検討の背景・目的

平成31年 3月25日

1. 背景

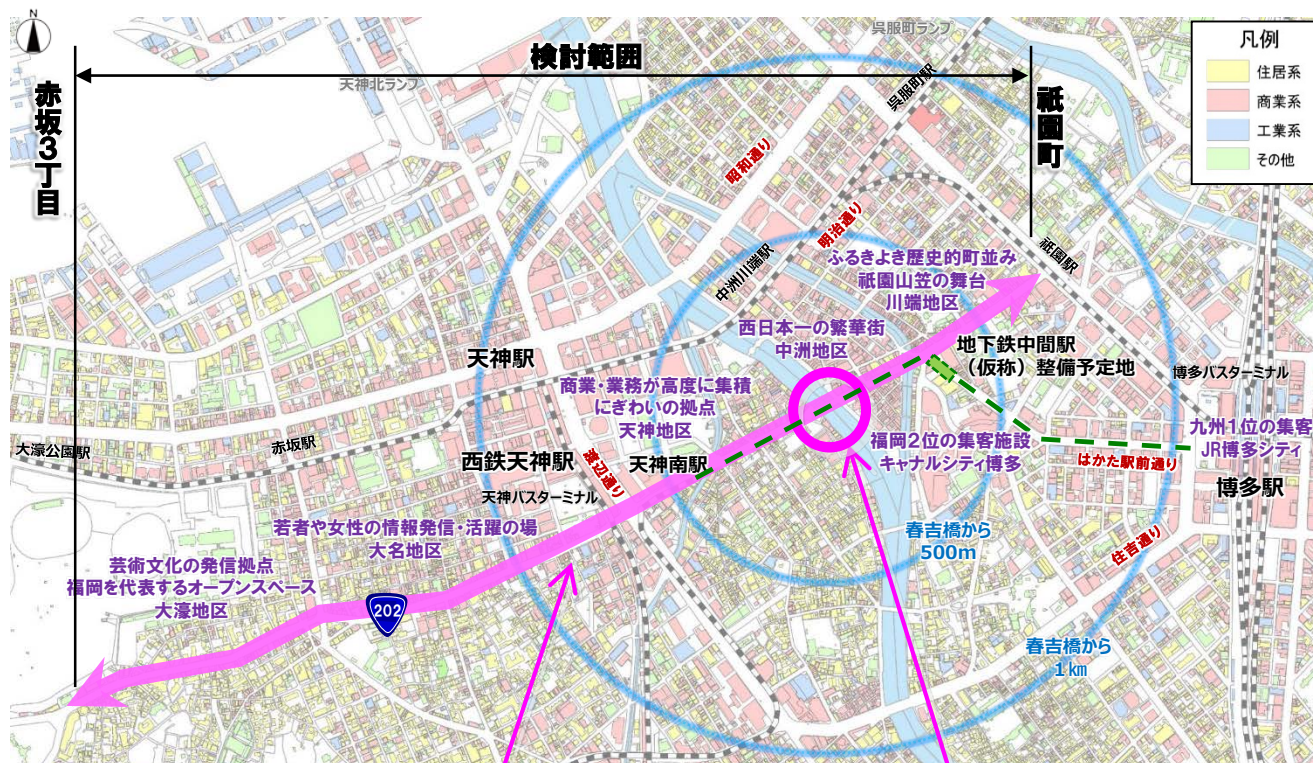
- 博多と福岡を結ぶ道路空間(国道202号国体道路)は自動車交通が一日3万台に達し主要渋滞箇所が多数点在するとともに、歩行者並びに自転車の交通量も多く死傷事故率が管内で上位に位置する等、交通機能に多大な課題がある。
- 中でも、春吉橋においては、架橋後50年余りが経過しており、下部工が著しく損傷し、感潮区域(河口から約1.5km)にあるため、塩害も進行、基礎が木杭である。このため、地震に対する耐力向上等を目的に、平成25年度より春吉橋架替事業が着手されている。

2. 目的

- 国体道路は、地下鉄七隈線延伸の中間駅(仮称)新設による歩行者の増大への対応や、都心部の回遊性向上によるまちの活力維持、強化を目的として、安心して快適な歩行者、自転車空間の形成と、自動車交通が共存できる道路空間の再編について検討する。
- 春吉橋は、「春吉橋を核とした空間利活用に関する技術研究会提言」に基づき、博多と福岡を結ぶクロスポイントとなる春吉橋賑わい空間のあり方について検討する。

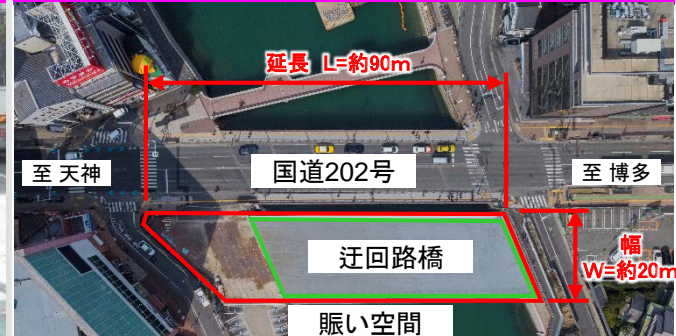
3. 検討範囲

検討範囲: 国体道路(天神～大名～赤坂) 優先区間: 祇園町西～渡辺4



国体道路

春吉橋



4. 優先検討区間の設定

- 博多と天神を結ぶ主要な回遊軸は「はかた駅前通り」と「国体道路」。
- 「はかた駅前通り」は現在、福岡市において道路空間再編による歩道拡幅を実施中であり、歩行空間の連続性の観点から、春吉橋を含む祇園町西～渡辺通4丁目の国体道路を優先区間と設定する。

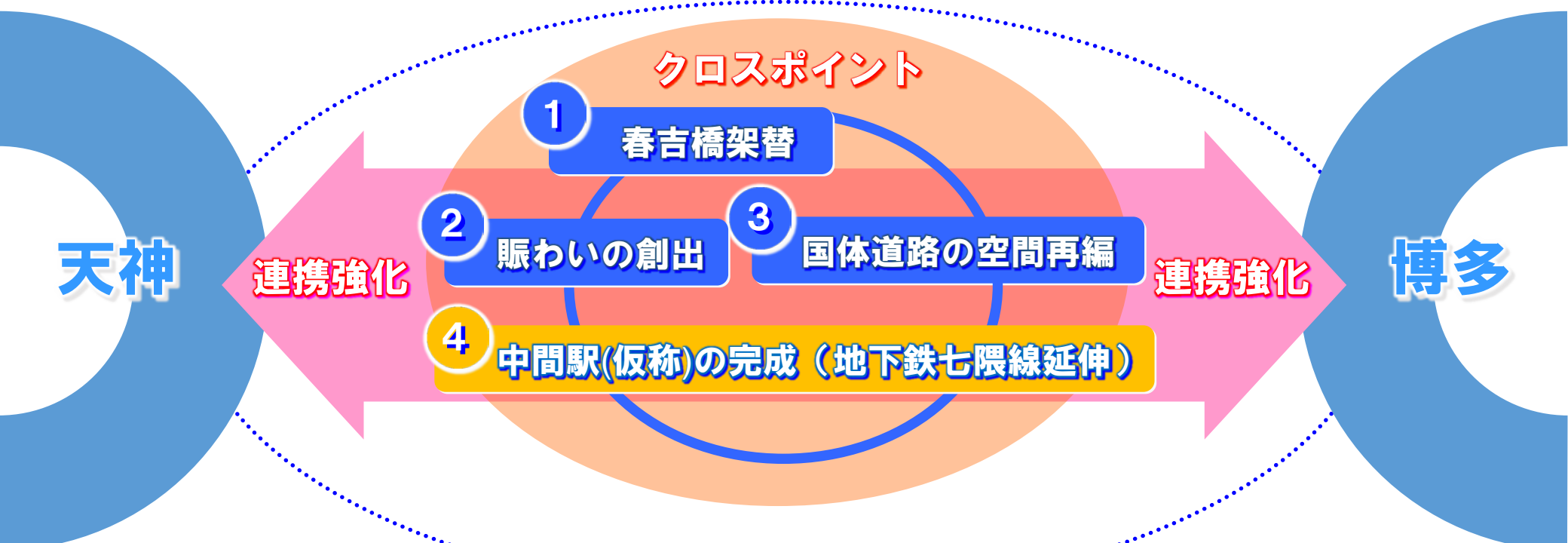


5. 検討会設置の趣旨

- 福岡市の都心中枢である「天神」と「博多」が共に発展するためには、二つの拠点を結ぶ回遊軸である国体道路の魅力を向上させ「回遊性」を高めることが重要となる。
- しかし、回遊性を支える国体道路やその周辺は、高度に集積した九州最大の繁華街や歴史的まちなみがあり、多彩な市民の暮らしがある一方、快適性や安全性に欠け、更に老朽化したインフラや建物、道路の著しい交通混雑、公共交通の定時性低下などの多様な課題がある。このため、現在、「回遊のまちづくり」の実現に向けて、福岡市、福岡県、国土交通省が一体となって、地下鉄七隈線延伸や、春吉橋架替など様々なプロジェクトを始動している。
- 今回、博多と福岡を結ぶ回遊軸となる『国体道路の空間』とクロスポイントとなる『春吉橋賑わい空間』のあり方を関係機関が連携して検討し、福博連携強化のための空間づくりを推進するため「博多と福岡を結ぶ国体道路の空間活用検討会」を設置する。

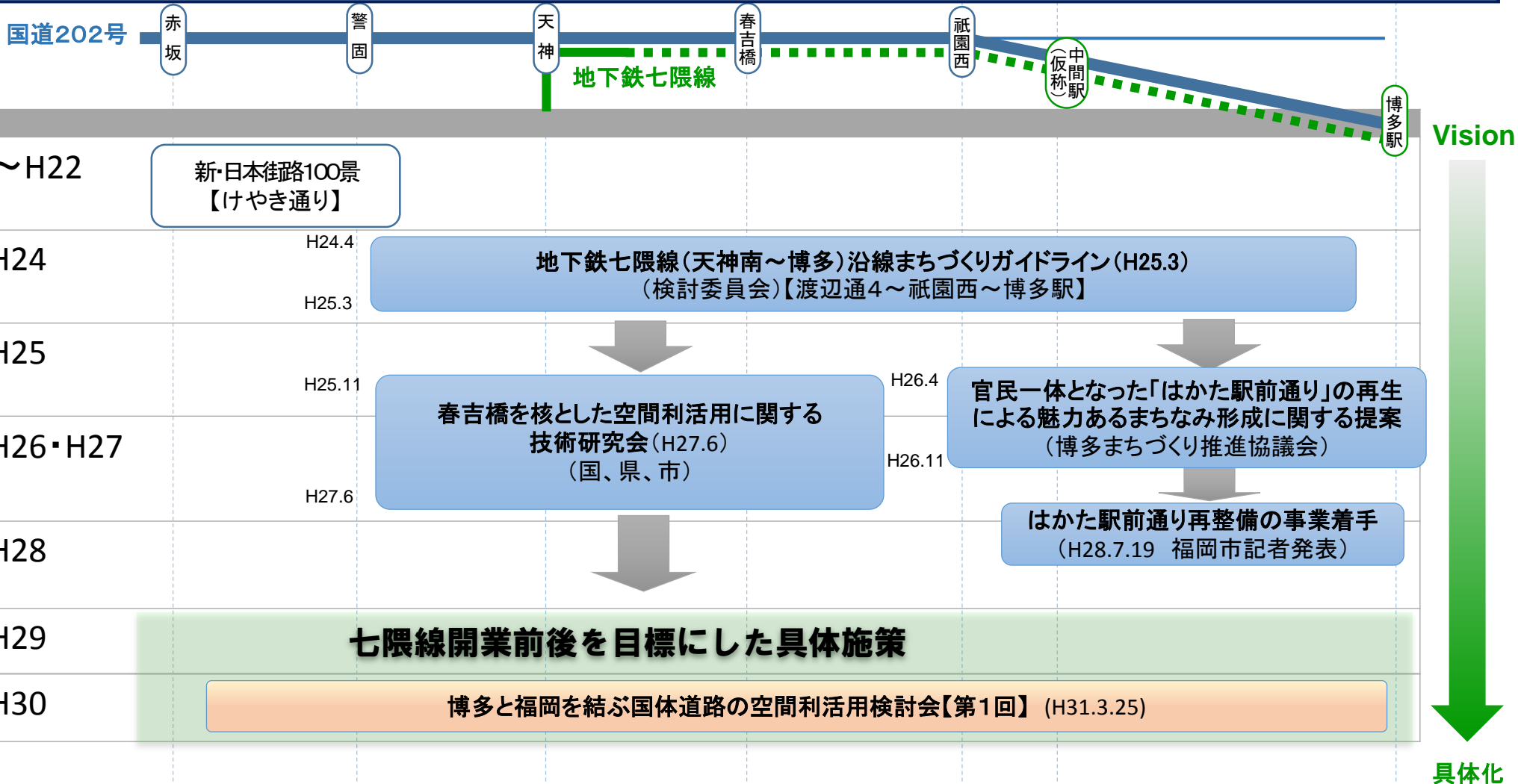
検討テーマ

- ・ 福博連携強化のための国体道路の空間再編のあり方
- ・ 福岡の新たなシンボルとしての春吉橋の空間のあり方



6. これまでの経緯

- 福岡市は、地下鉄七隈線の延伸にあわせ、沿線の魅力あるまちづくりを進めるため、沿線の地元やエリアマネジメント組織のほか道路、河川、交通の各管理者などの関係者とともに、今後の沿線での民間開発や公共施設整備におけるまちづくり目標を示す「地下鉄七隈線(天神南～博多(仮称))沿線まちづくりガイドライン」を策定。(以下、まちづくりガイドライン)
- 本検討会は、まちづくりガイドライン及び技術研究会提言に沿った取組みを検討する。

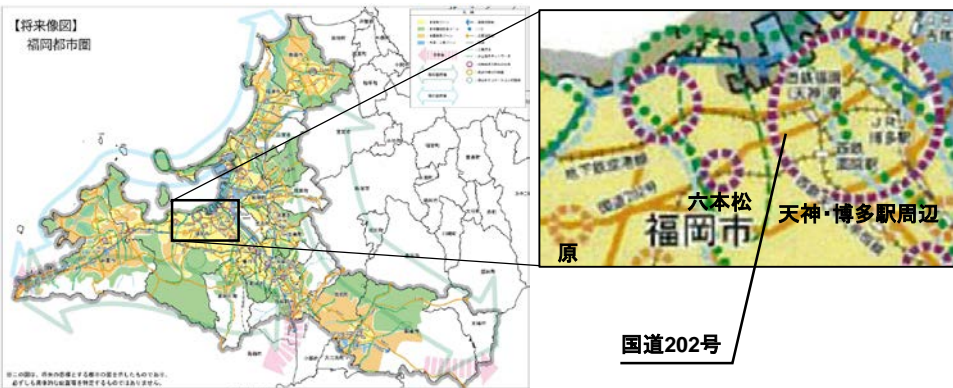


7. 国体道路の位置づけ

都心部において東西方向の連絡を受け持つ主要幹線道路

福岡都市圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案)(平成28年9月)福岡県

国道202号は、**福岡都市圏の「主要道路軸」**に位置づけられている。
大規模集客施設等の広域的な都市機能の集積を図る広域拠点に位置づけられている「JR博多駅/西鉄福岡(天神)駅周辺」、「地下鉄六本松駅周辺」と、身近な地域の拠点となる「原交差点周辺」等を連絡する役割をもつ。



福岡県緊急輸送道路(平成27年6月)、福岡市地域防災計画(平成27年6月)

国道202号は、**「緊急輸送道路1次ネットワーク」**を構成する道路として福岡県、福岡市で位置づけられている。
地震等発生時の広域的な緊急輸送を受け持つ主要な幹線道路を担っている。

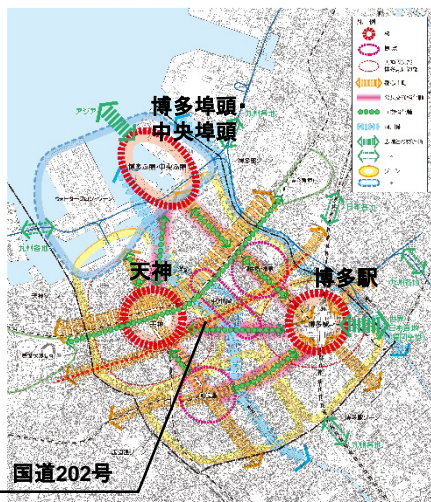


出典：福岡県緊急輸送道路(平成27年6月)

福岡市都市計画マスタープラン(平成26年5月改定)福岡市

国道202号は、**福岡都心部の「都心主軸」**に位置づけられている。
都心部の核である「天神」と、拠点である「御供所・冷泉」、「中洲川端」を連絡する役割をもつ。

■都心部の将来の都市構造



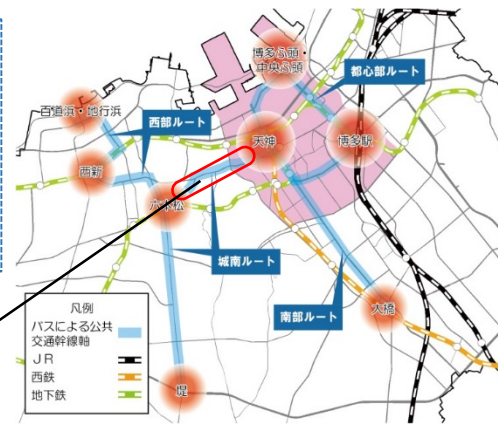
福岡市が目指す将来像(都心部)より抜粋

○都心主軸を骨格とし、各地区が一体となった都心部の機能強化
・天神・渡辺通り、博多駅周辺、博多埠頭、中央埠頭を結び、高度な都市機能が沿道に集積する**都心主軸を骨格とし、公共交通軸の強化により地区間相互の連携を高めるとともに、陸・海・空の広域交通拠点との近接性を生かしながら、3地区を一体として都心部の機能強化を進めます。**

福岡市総合交通戦略(平成27年3月)福岡市

国道202号(渡辺通4丁目～六本松)は、**バスによる公共交通幹線軸**として位置づけられている。

- 路線の状況に応じて以下の施策を実施
- ①バス走行環境の向上
 - ②バス専用レーンの指導・取締りの実施
 - ③バス専用レーンに関する啓発活動の実施
 - ④交通需要等にに応じた運行の実施
 - ⑤デザインの統一
 - ⑥公共交通幹線軸上における乗り継ぎ利便性の強化
 - ⑦バス路線の再編



国道202号(渡辺通4丁目～六本松)

8. 検討会の進め方

平成31年3月

第1回 検討会

～平成32年度

検討会開催(3回程度)

平成32年度末頃

提言

■検討の進め方について

- ①有識者委員会の設置(学識者、経済団体等)
- ②進め方の確認(会議全体の検討方針、スケジュールなど)

調査・アンケート等

■国体道路の空間利活用のあり方について

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none">①国体道路の空間再配分
検討<ul style="list-style-type: none">・現状の使い方や課題の確認・あるべき将来像・空間再配分の方針案・将来像を踏まえた景観 | <ol style="list-style-type: none">②春吉橋賑わい空間の
あり方検討<ul style="list-style-type: none">・空間利活用の条件整理・空間の使い方・整備が望ましい施設・管理運営・景観 |
|---|--|

【取りまとめイメージ】

- ① 福博連携強化のための国体道路の空間再編のあり方
- ② 「春吉橋を核とした空間利活用」のあり方